



Japan Medical  
Network  
Association  
Non-Profit Organization

# NEWS LETTER

2011年3月29日

2010年度版

1. 新理事長の挨拶 .....	Page 1
2. 平成22年度の事業活動報告 .....	Page 2
3. 各地域プロジェクトの現状報告/東京・京都・宮崎 .....	Page 3
4. 次年度の予定等 .....	Page 5

## 1. 理事長就任のご挨拶

このたび、図らずも理事長をお引き受けさせて頂くことになりました。

本協会は次のようなことを目的として設立された組織です。

- 1) 全国の「地域医療連携システム」と協力し、それらを相互接続して患者がどこへ移動してもシームレスな「医療データ」や「医療サービス」の利用ができるような仕組みの構築
- 2) 全国の「医療連携システム」の維持コストなど運用上の問題へ「基盤システムやソフトウェアなどの共有化」や「企業などとの相互協力」などにより対応
- 3) その結果として、国民の医療・福祉・健康をまもる全国的インフラの構築

しかし運営コストなどの問題、電子カルテの普及の遅れなど困難も大きく、当初掲げていたドルフィンプロジェクトと異なる他のEHRとの相互接続などについては未だ実現されていません。

ドルフィンプロジェクトで開発されたEHRセンター（宮崎、京都のiDolphin）の相互接続を実験的に成功させたものの、医療の地域性からその需要も乏しく、現状では本来の目的には到達しておりません。理事長をお引き受けした立場として非常に残念に思うところです。ここで必要になるものは、何と云っても「目的へ向かってひたむきに進もうとする情熱」でしかないと考えており、何とか態勢を立て直し次へバトンタッチができればと思っております。

今回の東日本の大災害におきましても、もし本協会の目標が医療ITのインフラとして実現しておれば社会にとって大きな救いになったことと思えます。各々に色々な考え方の相違があるのは当然のことですが、是非それを乗り越え、夫々の独自性を守りつつ、かつ相互連携のできる仕組みを考えて行きたいと思えます。どうぞ皆様の積極的なご意見、ご協力をお願いしまして就任のご挨拶とさせていただきます。

理事長 大橋 克洋

## 2. 平成22年度の事業活動報告

### 【調査・コンサルティング事業】

「海外における医療データの2次利用に関する調査研究」を行いました。  
(NTTデータとの委託研究事業)

#### 1) カナダ、アルバータ州のEHR現状調査

2010年9月にオリオンヘルス社の仲介により吉原理事、井上事務長にて現地調査を行いました。

[http://www.ehr.or.jp/news/topics\\_data/canada\\_2011.pdf](http://www.ehr.or.jp/news/topics_data/canada_2011.pdf)

#### 2) スペイン、デンマークにおけるEHR現状調査

2010年1月に愛媛大学 小林先生、京都大学 黒田先生にて現地調査を行いました。

[http://www.ehr.or.jp/news/topics\\_data/spain\\_denmark\\_2011.pdf](http://www.ehr.or.jp/news/topics_data/spain_denmark_2011.pdf)

#### 3) 2010年版HIMSS EHR白書

HIMSSの2010年版世界各国のEHRへの取り組みに関する白書

[http://www.ehr.or.jp/news/topics\\_data/A\\_Global\\_Perspective\\_Second\\_Edition.pdf](http://www.ehr.or.jp/news/topics_data/A_Global_Perspective_Second_Edition.pdf)

※著作権は日本医療ネットワーク協会とNTTデータで保有していますので、  
取扱いにはご注意ください。

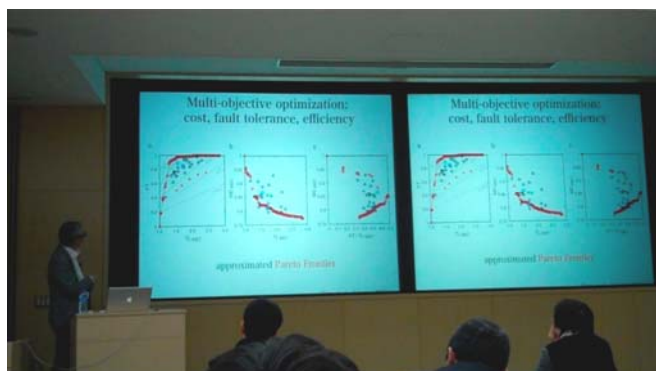
論文や発表等での内容の使用は、必ず許諾を得た上、出典を明記ください。

上記の調査報告は、4月1日付にHomePage上で公開予定です。

### 【普及・啓発活動】

2010年6月17日シンポジウム2010（港区：京都大学東京オフィス会議室）を開催しました。  
また本協会第1回理事会および通常総会（同会議室）を同日開催しました。

シンポジウムでは、井上事務局長による「openEHRヨーロッパにおける展開状況」、愛媛大学 小林先生による「ISO13606/openEHRアーキタイプについて」、吉原理事による「Dolphin Projectの最新状況」について発表が行われ、内外部から約50名の参加がありました。



そのほか、5月にMedXMLコンソーシアムとSeagaia Meeting 2010「EHRの標準化—世界の動向と日本の行方—」（沖縄：ホテルムーンビーチ会議室）の共催、11月に同法人主催「openEHRに関するセミナー」（港区：京都大学東京オフィス会議室）、3月に日本医療情報学会関西支部主催「春の講演会：アメーバの賢さと情報処理／中垣俊之教授（はこだて未来大学）」（京都：キャンパスプラザ京都）の後援を行いました。

## 電子カルテ共通化へ

京大病院と京都府立医大病院

京大病院(21科、111床)と京都府立医大病院(26科、1065床)で、それぞれの病院で受けた検査結果や処方薬を共通の電子カルテに記録し、両病院で利用できるサービスが年明けにも始まる。これほど大きな病院同士の連携は例がなく、検査や薬の重複を防ぎ治療を効率化できる利点も大きい。両病院は、他の医療機関にも参加を促し、誕生から死にまで全診療内容を網羅した「人生履歴」の実現を目指す。京大病院は、会員登録した患者1500人分の検査結果や処方の内容、診療の要約、手術記録などの電子カルテを作成。データを、2007年7月から、診療情報共有システムに登録している。府立医大病院も、同じシステムに参加。来年1月から共通カルテの会員を募集し、半年後に本格運用する予定。情報は検査と処方履歴だけが、同じ患者が両院で受けた診療内容が時系列で記録され表示できるようにする。共通カルテは、患者がパソコンや携帯電話で見て、日々の症状を書き込み、両院でチェックすることも可能。また患者が希望すれば他の病院での診療でもデータを利用でき、所定欄に診療結果を書き込める。

(新聞記事：読売新聞/2010年12月20日夕刊)

### 【ドルフィン・プロジェクト】

まいこネット@京都では、このたび2病院目となる京都府立医科大学病院との接続が完了し、4月よりサービスが開始されます。これにより京都大学病院と京都府立医科大学病院との連携が実現されます。(資料)

### 【その他】

先日3月18日に第2回理事会(Web+電話会議)を開催し、本協会の今年度の事業についての報告、今後の方向性について協議を行いました。また設立当初より副理事長の大橋理事の理事長就任に伴い、副理事長の選任について協議の上、荒木理事が副理事長に就任されました。

## 3.各地域プロジェクトの現状報告／東京・京都・宮崎

### 【東京】

#### 東京都医師会「HOT プロジェクト」の現状 東京都医師会理事 大橋 克洋

国家間の戦争から医事紛争や兄弟喧嘩まで、あらゆる紛争がコミュニケーションさえ良ければかなり防げるはず。コミュニケーションの薄いことが疑心暗鬼を産み紛争を産みます。そのようなことから「ITを使って医療と社会とのより良いコミュニケーションを」が東京都医師会のHOTプロジェクト:Health of TOKYOです。しかし、その前に「都内各医療機関の受け皿としての態勢作り」が必要です。

東京という地域には大学病院を始めとする中核病院が多数存在し、夫々を核とした地域医療連携があって、それらが複雑にオーバーラップしています。さらに、そのようなことから東京の医療機関では医療連携に余り困っておりません。言い換えればハングリーではないのです。従って HOT の登録医療機関は100施設を越えますが、他の地域でうまく動いている地域医療連携モデルを東京へ持ってきても、そのままではまったく機能しません。

これが最大の悩みです。少しでも利用して頂くきっかけになればということで、毎年、少しずつ診療支援サービスを増やしてきました。

HOTでは「行政からの財政的支援は一切あてにせず、基本的に自前の予算で運営する」というポリシーを貫いてきました。持続性ある事業とするには必須の条件と考えるからです。そのようなことで一度に多額の費用を投入することはできませんが、毎年コツコツとサービスの品揃えを増やしシステムの改良を続けております。

当初、東京都医師会内に設置していたサーバを、セキュリティや保守その他の問題をより強固にするため数年前から外部データセンターに移動し、データセンターの仮想環境上で運用しています。

また当初は「受益者負担」の考え方で一定の利用料を頂いていましたが、現在は東京都医師会員であればまったく無料のサービスとしており、次のような診療支援サービスを会員へ提供しています。電子紹介状、電子健康ノート、電子処方箋、診療予約、医薬品と対応病名検索システムなど。いずれもWebアプリケーションで、webブラウザさえあれば使えるのが特徴です。しかし、これでもなかなか利用数が増加しないのが大きな悩みで、今年度は少し方向性を変えあらゆるものを蓄積する「電子書庫」の提供や、都医の他の事業部で計画している「生涯研修制度申告支援システム」「感染症サーベイランス」なども取り込んで行く予定です。



**【京都】  
「まいこネット」の現状  
特定非営利活動法人京都地域連携医療推進協議会理事 吉原博幸**

特定非営利活動法人京都地域連携医療推進協議会では、2006年に「まいこネット」サーバを立ち上げ、同時に、日本医療ネットワーク協会の開発したsuper dolphinとの接続を完了し、宮崎の「はにわネット」との連携を可能とした。2007年6月に、京大病院がデータ供給を開始。2008年10月、日本医療ネットワーク協会によって開発された携帯電話向けサービス (uDolphin) のサービスも取り込み、現在に至っている。登録された利用者数は約5000を越えており、そのうち純粋な患者レベルでの登録者数は、1300人に達している (図1)。

2011年1月には、京都府立医大病院が接続に成功。2011年4月のサービス・インを予定している。なお、これまで京都市三条烏丸のNTT西日本のデータセンターにサーバを設置していたが、予算の都合等で、2011年6月までの契約とし、以後は、クラウド移行を視野に入れ、北海道電力データセンターに仮想サーバをレンタルし、これまで稼働していたサーバ、データ等の資源を移行中である。予定では4月に移行を完了。

このクラウドサーバは、日本医療ネットワーク協会が今後は管理運営を担当し、まいこネット等、地域プロジェクトは、その資源の一部をレンタルする形態となり、図2のごとく、スーパードルフィンのある方も若干変わってくるものと考えられる。

また、PHRとの連携を模索。2010年より、NTT研究所との共同研究を開始。現在、まいこネットIDを使って「Gooからだログ」〈http://karada.goo.ne.jp/〉にログイン可能で、ボランティアとして参加した患者が、Goo内で体重、血圧、運動量、食事、飲酒などのPHR情報を入力、京大病院受診時に蓄積データのサマリーを印刷して持参するという運用を実験中である (図3)。

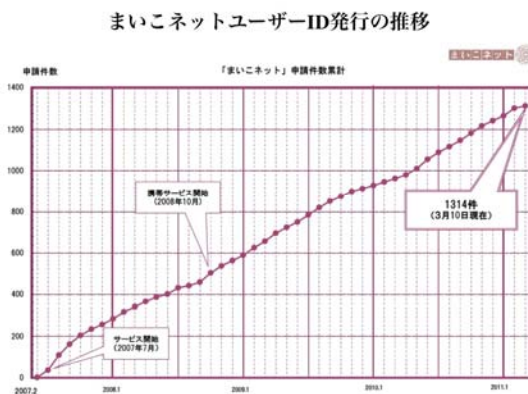


図1

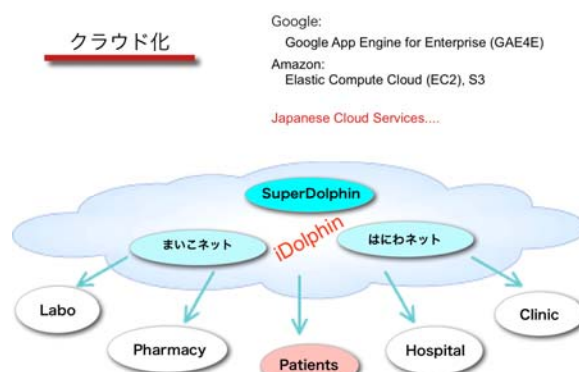


図2



図3

## 【宮崎】

## 「はにわネット」の現状

## 非営利活動法人宮崎健康福祉ネットワーク協議会副会長 荒木賢二

はにわネットによる宮大病院連携システムを、21年8月から大学病院が主導する病・診連携方式に切り替え、大学病院の診療情報を連携先医師がWeb電子カルテを通じて閲覧できるようにした。

宮大病院連携システムを大学病院主導型に切り替えたことにより、連携医師及び連携患者数が飛躍的に伸び、23年2月末現在で連携医師99名、連携成立患者数457名となった。

はにわネットによる宮大病院連携システムにおいて、効果を調査するために連携患者数の多い連携医師10名にヒアリングを行った結果、診療の質向上や効率の向上に役立てており、

ネガティブな意見はないが、技術的な課題（一覧性の悪さやレスポンスの悪さ）の指摘があった。今後は、はにわネットのWeb電子カルテの技術的な課題について、改善を図る。

また最近、患者さん向けのデータ開示サービス(B2C)を開始、資料のごとく、ホームページで患者さん向けにアナウンスを行っている。それほど積極的なPRを行っていないので参加者の増加はゆっくりではあるが、利用者の反応は良好である。(資料1)

## 「はにわネット」を利用した宮大病院診療情報閲覧サービスのご案内

宮崎大学医学部附属病院(宮大病院)では平成22年11月1日より、診療情報の一部を患者さんの携帯電話またはパソコンから閲覧できる「宮大病院診療情報閲覧サービス」を開始いたします。

## ◆対象は？

宮大病院を受診している20歳以上の患者さんです。

## ◆閲覧できる診療情報は？

処方、検査結果、オーダーの予約情報です。本人以外の方は閲覧することができません。

## ◆お申し込み方法は？

総合案内においてある「宮崎大学医学部附属病院診療情報閲覧同意及び申請書」に必ず申込者本人が必要事項をご記入の上、総合案内へご提出ください。お申し込みをされた方は、ご本人確認の後「はにわネット」に登録され、ID、パスワードが発行されます。

## ◆閲覧の方法は？

ご自分の携帯電話またはパソコンから、「はにわネット」にアクセスし、ID、パスワードを入力することにより、検査結果や処方、予約などの内容などがご覧いただけます。



## ◆注意していただきたいこと

- ▶ 診療情報は、申請者である本人しか閲覧できません。
- ▶ 閲覧のID、パスワードが他人に漏れないように十分に注意してください。
- ▶ 閲覧した検査結果などの診療情報については自己判断をせず、疑問がある場合には、必ず宮大病院を受診の上、主治医に相談してください。電話によるお問い合わせはお受けできません。
- ▶ 上記の事項に反することがあった場合にはサービスは中止されます。

## ◆お問い合わせは？

宮崎大学医学部附属病院 医療情報部  
電話：0985-85-9057 FAX：0985-84-2549

## 資料1

## 4. 次年度の予定等

研究プロジェクトについて、現在京都大学主導で行われている長浜コホートスタディプロジェクト（長浜市をフィールドに全住民対象の検診・遺伝子調査、現在対象住民1万人）と連動させたEHRシステムの取り組み（地域住民全員参加型の生涯カルテによる健康増進）を行うなど、外部資金獲得へ向けての取り組みを行う。

また、先般3月18日の第2回理事会で協議を行った今後の本協会のあり方について、設立当初の目的である、全国の「地域医療連携システム」の相互接続と協力関係の構築へ向けて、話し合いや活動の場を設けるなど、地域ごとの医療連携システムについて情報交換を定期的に行い、目的達成に向けたディスカッションの機会をつくる。

シンポジウムやセミナーの開催、また5月にMedXMLコンソーシアムとSeagaia Meeting 2011（宮崎：宮崎シーガイアリゾートヒムカセンター会議場）の共催を行うなど、普及・啓発活動に力を入れる。

調査・コンサルティング事業として、昨年度に続き「海外における医療データの2次利用に関する調査研究」を行う。調査先はフランスを予定しており、難病研究データベースと臨床研究データベースの融合について調査行う。



**特定非営利活動法人 日本医療ネットワーク協会**

〒142-0063東京都品川区荏原4-4-2

大橋医院内

Tel : 03-3785-8358

E-mail: [sdpoffice@ehr.or.jp](mailto:sdpoffice@ehr.or.jp)